

課題名 森林認証取得の経緯と効果等について
(取得後3年間をふり返って)

機関名

所属 網走西部森林管理署

氏名 太田尚哉

1. 課題を取り上げた背景

○網走西部流域では、流域林業活性化の起爆剤として森林認証取得の動きが活発化し国有林、道有林への認証取得が要請されました。地域の要請に応え、網走西部流域の国有林も平成19年12月にSGEC森林認証を取得し、3年が経過したことから、これまでの取組みを紹介するとともに、認証取得の効果等について考察することとしました。

2. 取組みの経過

○認証取得時の弱点指摘等に対応し、次のように取組みました。
(平成20年度)

- ①生息・成育する可能性のある希少種をリストアップした希少種リストの作成
- ②希少種の識別方法を含む希少種ガイドブックの作成
- ③生態系モニタリング調査内容の決定、調査結果取りまとめ様式の作成
- ④事業の事前・事後チェックリストの作成

(平成21年度)

- ①職員を対象とした森林管理勉強会の開催
- ②請負事業者等を対象とした研修会の開催
- ③生態系モニタリング調査、事業の事前・事後チェックの実施

(平成22年度)

- ①森林管理勉強会（職員対象）及び請負事業者等研修会の開催
- ②生態系モニタリング調査、事業の事前・事後チェックの継続実施
- ③地域住民の参加募集による生物多様性を学ぶ森林見学会の開催
- ④国有林での生物多様性保全を紹介するパンフレット等の作成

3. 実行結果

- 地域におけるCOC認証事業者が増える中で、認証工場への認証材の販売量が増加してきています。
- 国有林の森林認証取得効果として
 - ①地域の認証エリアが大面積となり、未取得の森林所有者への認証取得の働きかけの促進、COC認証取得事業者の増に貢献
 - ②認証材の安定供給に貢献
 - ③認証取得時の指摘への対応を行う中で、勉強会や研修会の開催による職員や請負事業者の意識向上によって森林の適正な管理の一層の推進や希少種情報の収集、事業の適切な実行
 - ④第三者機関の管理審査により国有林の持続的な管理経営が客観的かつ説得力を持って証明があげられます。

4. 考察

- 国有林の管理経営における今後の取組み
 - ①勉強会・研修会の開催による知見の向上や事業の事前・事後チェックリストによるチェックの継続実施
 - ②生態系モニタリング調査の充実と水辺林関係の状況整理
 - ③認証材の安定的・計画的な供給と低コスト高効率作業システムの拡大による素材生産の低コスト化の推進
 - ④林地残材の販売等による認証材の需要拡大
- 地域での認証効果発現に向けた取組・課題
 - ①認証材の安定供給を通じ、「森林認証」と「品質」のダブルブランド戦略の推進への貢献
 - ②認証材所有者の連携による認証材供給量の情報提供の仕組みづくり
 - ③最終消費者までの認証材・認証材製品の流れの把握と認証材需要拡大のための方策検討
 - ④認証取得効果の定量的分析
 - ⑤最終消費者への森林認証認知度の向上